

<参考情報>

2020年11月30日

フエニックス・コンタクト株式会社

Eplan、Rittal、Phoenix Contact が、制御盤の工業化のための標準化を推進 ～"Smart Engineering and Production – Efficiency in panel building (スマートエンジニアリングと生産 – 制御盤製造の効率化) “～

<※当プレスリリースは、2020年11月17日（現地時間）Eplan、Rittal、Phoenix Contactで共同発表されたリリースの抄訳です。>

【ドイツ、モンハイム/ヘルボルン/ブロンベルク発、ドイツ現地時間 2020年11月17日】 Eplan、Rittal と Phoenix Contact は2015年より、制御盤や開閉装置製造のエンドツーエンドのデジタル化のアイデア、トレンド、ビジョンの探求するための技術的なネットワーク「Smart Engineering and Production 4.0」を形成し、協力関係を続けてきました。本ネットワークによるアイデアは、具体的な製品イノベーションへと変貌を遂げ、コンフィギュレータ、エンジニアリング・プラットフォーム、製造向け自動化ソリューション、デジタル・アシスタンス・システムなどがネットワークとして機能するようになっています。

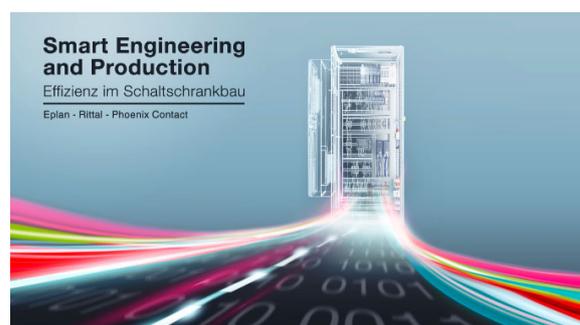
データは、エンジニアリングから製造、運用、サービスに至るまで、エンドツーエンドで一貫性を持ち利用されています。最終的には、システムが完全に相互作用した状態です。デバイスのデータは標準化され、エンジニアリング、材料管理、制御盤や開閉装置の製造プロセスで継続的に利用でき、単一の情報ソースに基づく完全なデジタル化プロセスに貢献しています。

データ形成の支援

Eplan、Rittal、Phoenix Contactの3社は、デバイスとデバイスデータのデジタル記述のためのECLASSを含む、さらなる規格の開発を支援しました。ECLASSはその間に確立され、AutomationMLとの組み合わせにより、エンジニアリング、コンフィギュレーション、製造のすべてのシステムに渡るデータの提供に重要な貢献をしています。EplanのCEOであるSebastian Seitz氏は、制御盤と開閉装置の製造部門全体にメリットがあると考えています。「制御盤と開閉装置の製造の自動化とデジタル化が実現しました。これを実現させるための前提条件は、高品質かつ標準化された部品データとインターフェースで、私たちはそれを開発することに成功しました。」

制御盤製造の工業化

統合された設計データは、Automation MLなどの標準化されたデータ交換フォーマットを介して製造プロセスに流れ込みます。リタルの研究開発担当マネージングディレクターであるThomas Steffen博士は次のように説明しています。「その結果、筐体加工機械、電線加工機などの自動化機械を、制御盤や開閉装置製造のデジタル化された製造プロセスに統合することができます。」



またPhoenix ContactのCTOであるRoland Bentは、この共同作業を総括して次のように述べています。「私たちはプロセス全体を見渡し、常に全体像に目を向けていました。制御盤と開閉装置製造におけるデジタル化された製品開発は、この分野の産業化への道を切り拓くものです。」

「Smart Engineering and Production – Efficiency in panel building (スマートエンジニアリングと生産 – 制御盤製造の効率化)」の詳細は、以下のサイトをご覧ください。

www.smartengineeringandproduction.com (英語)

<EPLANについて>

EPLANは、電気制御盤・装置の「設計」「製作」「運用」の効率化を実現するためのソフトウェアとサービスをご提供しています。機械や制御盤メーカーに向けて、世界トップレベルの設計ソフトウェアを開発するとともに、難しい設計製造プロセスの効率化にも高い技術力でお応えします。

全バリューチェーンを通じたデータの一貫性を実現するには、ERPやPLM/PDMシステムに対するインターフェイスが重要です。EPLANをご利用いただければ、全てのエンジニアリング分野にわたってシームレスな連携が可能になり、中小企業からグローバル企業まで、企業の大きさに関わらず、お客様の専門技術をもっと効率的に活用できます。EPLANは、設計から製造までつながるエンジニアリングと自動化を推進し、お客様をサポートしています。すでに「効率的なエンジニアリング (Efficient Engineering)」を理念として全世界で55,000社以上のお客様を支えています。

1984年創立のEPLANは、オーナー経営によるFriedhelm Loh Group (フリードヘルム・ロー・グループ) の一員です。Friedhelm Loh Groupは、全世界で18カ所の生産拠点と80社の子会社を運営しています。グループ全体で12,000名の従業員を擁し、2019年の売上は約26億ユーロに達しました。

より詳しい情報につきましては、www.eplanjapan.jp とwww.friedhelm-loh-group.com をご覧ください。

<Rittalについて>

ドイツのヘルポルンに本社を置くリタルは、産業用エンクロージャー、配電、盤用クーラーなどの温度管理システム、ITインフラストラクチャ、ソフトウェア、サービスのソリューションを提供するシステムメーカーとして事業に取り組んでいます。Rittalのシステムは、工作機械、プラントエンジニアリング、食品・飲料、IT・通信など、世界の産業の90%以上に導入されています。

リタルの製品ポートフォリオには、拡張可能なエンクロージャーなどが含まれており、製造プロセス全体でデータを利用することができます。リタルの盤用クーラーは、消費電力を最大75%削減し、二酸化炭素排出量を大幅に削減することができます。製造現場と通信して予知保全やサービスを可能にします。また、ITラックやモジュール式データセンターからエッジデータセンターソリューションまで、革新的なIT製品も等も含み、幅広く提供しています。ソフトウェアプロバイダーのEplanとCideonは、多分野でエンジニアリングソリューションを提供してバリューチェーンをサポートし、リタル・オートメーション・システムズは開閉装置のソリューションを提供しています。ドイツ国内では、24時間以内に需要に応じて製品を供給することができます。

1961年に創立のリタルは、オーナー経営によるFriedhelm Loh Group (フリードヘルム・ロー・グループ) の一員です。Friedhelm Loh Groupは、全世界で18カ所の生産拠点と80社の子会社を運営しています。グループ全体で12,000名の従業員を擁し、2019年の売上は約26億ユーロに達しました。

より詳しい情報につきましては、<https://www.rittal.com/jp-ja/> と www.friedhelm-loh-group.com をご覧ください。

<Phoenix Contactについて>

Phoenix Contactは、本社をドイツのブロムベルクに持ち、電気工学、電子工学、オートメーションの分野でコンポーネント、システム、ソリューションを提供する世界的なマーケットリーダーです。同社は世界55カ国以上に拠点をもち従業員約17,600人、世界11カ国で製品を生産し、2019年の売上高は24億8,000万ユーロに達しています。グループは、ドイツの18社と海外の4社、および世界各地の販売子会社で構成されています。

製品、システム、ソリューションでデジタルトランスフォーメーションをサポートしています。

ドイツ、中国、米国の開発施設では、お客様のご要望に応じた革新的な製品やソリューションが生み出されており、数多くの独自の特許を保有しています。大学や科学研究機関と密接に協力して、E-モビリティやデジタル化などの未来の技術を研究し、市場性のある製品、システム、ソリューションへの変換を行っています。

詳細は当社ウェブサイトをご参照ください。 www.phoenixcontact.com

以上

本件に関する問い合わせ： フェニックス・コンタクト株式会社 経営企画部
Tel: 045-471-0059 Email: info@phoenixcontact.co.jp HP: <http://www.phoenixcontact.co.jp>